



草加光陽育成会だより



令和3年度に向けて

草加光陽育成会 会長 森田 とし子

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に翻弄され、戸惑いながら運営を進めて参りました。育成会役員を受けて頂いた36名の皆様には感染リスクをさける為、集まっていただくことができず運営委員として11名に人数を減らし、厳重な感染予防をしながらコロナ禍での活動へと見直しを話し合ってきました。

令和3年度も、コロナ禍の状況により事業が開催できるかは不安定です。できることを探しながら皆さまとの絆を深めていきたいと思っております。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、感染対策に大変な時なのに、会議室を使用させていただいて「グループホーム光輪の家」に感謝申し上げます。

一日も早くコロナ感染が終息し、穏やかな日常に戻ることに、皆さまのご健康とご多幸をお祈りいたします。

さまざまなセミナーや研修、体験談で知る

ほめることの大切さ

就学部 川井 かすみ

お子さんのこと、ほめていますか？最近笑顔になった出来事は何ですか？

コロナ禍で生活が一変しましたが、私は口角を上げ少しでも笑顔になることを心がけています。

さて、セミナーや体験談等で、お子さんを注意するときに、「ダメ！」と大きな声で注意したり、いつもと違う声のトーンで注意すると、パニックを起こして暴れたり、自傷行為をするなど聞かれました。先日のオンラインセミナーでも、母親が注意すると暴力を振るうことがあるので、父親と一緒にいる時間を増やすようにするなど生活を変えたことのお話もありました。

ところで、埼玉県立大学の森正樹先生（ご専門は特別支援教育、保育所や小中学校でのインクルーシブ教育・保育をご研究）は、必要な時は注意することも大切ですが、その言い方をちょっと変えるだけで子どもにチャンスを与えられと述べています。「ダメ」の一言をぐっとこらえて、「こんなときどうする？」と気づきを促す問いかけをしてみましょう。気づいたら褒めてあげます。行動の軌道修正の手がかりをタイミングよく掲示することができれば、子どもの失敗体験は成功体験に変わるとのことです。

「ダメ」をこらえて、「～してほしいな」「～できたらかっこいい」「〇〇できたのはえらい、□□もしょうね」と子どものモチベーションを上げる言葉に代えてみてはいかがでしょうか？

お子さんをいっぱいほめてあげてください。

※ 森正樹先生の執筆された教育専門誌の論文から一部引用

『指導と評価』第65巻6号 50-51頁(日本教育評価研究会)

＊＊コロナ禍の中で＊＊

社会福祉法人 光陽会
理事長 大橋愛子

「新型コロナウイルス感染症」は、世界中に感染が広がり、あつという間に日本国内でも感染が広がり集団感染「クラスター」が確認されたとか、乗客の感染が判明したクルーズ船が横浜港に入港し、その対応が報じられ毎日、都道府県別PCR検査の陽性者数が報告されるようになりました。とにかく、「手洗い・うがい」を徹底することを推奨されてきました。

その後、全国すべての小中高校に臨時休校の要請があり、「緊急事態宣言」が発令され、これからどうなるのか、心配、不安を覚えました。

当法人でも、通所自粛及び自主通所をお願いをして、感染拡大防止のための対応を取らせていただき、支援が必要な利用者様には、施設での支援を行いました。

「緊急事態宣言」が、解除され、各施設は、感染拡大防止対策を徹底し、通常の活動を再開しましたが年間行事計画等の活動の一部は、今まで通り出来ないこともあり、変更または、中止になりました。「うつらない、うつさない」と合い言葉のように心して、ご家庭や関係するグループホーム等と協力し、利用者様の支援にあたっています。

そのような中、新型コロナウイルス感染症の關係で施設整備等が遅れていました地域活動支援センター「榮光の家」の施設整備が整い、令和三年一月一日付けて、生活介護「榮光の家」と

して、活動運営開始致しました。

また、昨年十二月の理事会・評議員会で残念ながら生活介護「あしかび」は、令和三年九月末で事業を廃止することが決定いたしました。「あしかび」の保護者会様へは、利用者・職員一緒に生活介護「青空の家」へ異動することを説明し、異動先の「青空の家」保護者会様にも説明させていただきました。今後は、利用者の皆様が「青空の家」で心身ともに安定した活動が出来るようゆとりのある施設整備をするため、利用者様の安全に配慮しながら改修工事を予定しています。

また、法人内でも、時代の流れに沿って、準備を重ね、各施設を結び、リモート会議のシステムを取り入れ、経営会議を行うようになりました。

社会福祉法人光陽会のホームページもリニューアルしましたので、機会がありましたら見ていただきたいと思っています。（光陽会 草加で検索して下さい）

最後に、当法人の設立当初の役員で理事の野口卓爾様がもうじき桜が咲こうとしている時に旅立たれました。草加光陽育成会が設立五十年ということですが、野口卓爾様には、会の結成当初から良き理解者としてご指導いただき、草加光陽育成会及び当法人を見守っていただき、まだまだ、ご指導いただきたいことがたくさん有り本当に残念で成りません。また、昨年、当法人の理事で草加光陽育成会会員の小澤苗実様が旅立たれました。謹んでお二人のご冥福をお祈り申し上げます。



野口卓爾先生

ありがとうございます。

草加光陽育成会
顧問 秋山 恵美子

三月十七日朝、先生がお亡くなりになった連絡を息子様から頂き、大橋理事長、つばさの森保護者会会長佐々木様と先生宅に伺いました。

まだお話ができそうなお顔で迎えていただき、ご家族の皆様にも、つばさの会の発足当時より五十年にわたって、いつも支えて下さったお陰で、多くの会員が助かり、社会福祉法人光陽会も立ち上げられたことなど感謝の心を涙ながらにお伝えいたしました。

コロナさえなければ、偉大な野口先生をお招きして森田会長を中心に素晴らしい五十周年を祝いし、優しい心温まるご挨拶を頂けたことでしょう。本当に残念でなりません。今後共、お世話になりましたことを胸に刻んで頑張り、後世につなげます。

昭和四十五年息子が誕生しましたが、当時は精神薄弱児と言ひ、偏見差別が普通の世の中でした。今では考えられない時代です。福祉事務所の職員も数名でした。その頃から先生は、親亡き後のことを大変心配されていたことが、私の脳裏から離れませんでした。

当時ダウン症は短命で十歳まで生きられないと言われていて、ほっとしていたのが正直な心の内です。ところが五十一歳の今も、まだまだ元気で野口先生もご心配された、親亡き後に直面しています。

不思議なことに先生がお亡くなりになった日、我が息子はグループホーム



ムひまわりの郷に入りました。不思議なご縁を感じずにいられません。先生から目に見えない大きな力をお借りしたのかと毎日仏壇に手を合わせて感謝いたします。ありがとうございます。

まだまだ先の見えない心配事が育成会会員の皆様へのしかかっています。何事にも負けない強い絆と魂の育成会会員です。先生にお世話になったことを忘れることなく、会員一同頑張ります。

ある時は市長に、又助役室に押し掛けたことも度々でしたが、よい思い出と体験でした。

五十年間、総会、クリスマス会、施設開所式、落成式、法人設立等休まずご出席していただきました。一度もお休みなく百三十数回以上になります。県会沢山のお祝いもいただきました。県会議員としても草加には二人といない素晴らしい政治家でした。政治を志す方は野口先生を見習っていた。くださったと常に思っています。

野口卓爾先生のご冥福をお祈り申し上げます。



～編集後記～ 広報：野口 広美 川井 かすみ

新型コロナウイルス感染が猛威を振るう中、57号発行につきまして、会員の皆様のご協力を頂きましたこと深く感謝いたします。また、一日でも早い感染の終息を願うばかりです。